

大阪の通称「〇〇道」の研究

行俊 良雄

【目的】

京都の「哲学の径」「鯖街道」、奈良の「山の辺の道」など名前を聞いただけでわかる有名な道がある。これらの道は多くの人がイメージを共有でき、同時に場所の特定もできる。大阪にも通称名で呼ばれるいくつかの道があり、それぞれ名称の由来となる歴史やエピソードがある。仮に「法善寺横丁」に名前がなければ、ミナミに多くある裏路地のひとつにすぎないが、名前があることによって、歌が生れ、映画の舞台になり多くの人を訪れることによってブランド化されていった。

通称名の道は多くの人が行き交う時代に自然発生的に生まれるが、環境の変化によって人の往来が減ると名前が消えていく。近年は民間や行政によって命名されることもある。命名によって賑わっている所もあるが、命名前の様子と変わらない道も多い。通称名の道が地域に親しまれ、定着している事例を調べ、沿道の地域の人々、民間の事業者、行政に対しての提言にまとめる。また、時代の変化によって使われなくなった通称名の道については名称の復活の可能性について探る。

【内容】

近代大阪の通称名の道の変遷を分類、整理し、道に名称があることの効果を確認する。公募により新たに命名された道については、定着させるための要素と問題点を調べる。また、次の3つの視点から具体的な事例でも確認する。

- 1) 新たに道の関係者によって命名された道
ダイヤモンドトレール／豊中ロマンチック街道／オタロード（日本橋）
- 2) 歴史的由来の名称を近年に通称名として付けた道
レッチワースロード（吹田市・千里山）
- 3) かつては通称名があった道、通称名があまり使われなくなった道、
ビール道（吹田市）／造船所通（大阪市住之江区）

【結果】

- 1) 道には名前があることが重要。
 - ①道（通り）の名称で所在地を表示した方が観光客に分かりやすい。
 - ②道の名称に通称名があると、インターネットで検索しやすい。
- 2) 道の名称について、命名時には次の点に留意する必要がある。
 - ①景観や象徴的な建物の表現されている。
 - ②歴史的な由来が含まれていること。
 - ③言いやすいこと。
 - ④他の地域と差別化できること。
- 3) 道の名称は現地に表示され、地図に記載されなければ定着しない。

1. 全国的に有名な通称名の道 共通点

- 名称の由来となる歴史・ストーリーがある。
- 「あれっ?」と思わせる名称が興味を深める。
- 「道」を核に周辺の建物が一体となって景観のイメージを作り出す。
- 多くの人が特定のイメージを共有。
同時に場所が認知される。

↓

多くの人が集まり、賑わう。

↓

地域・観光の活性化

2. 研究対象

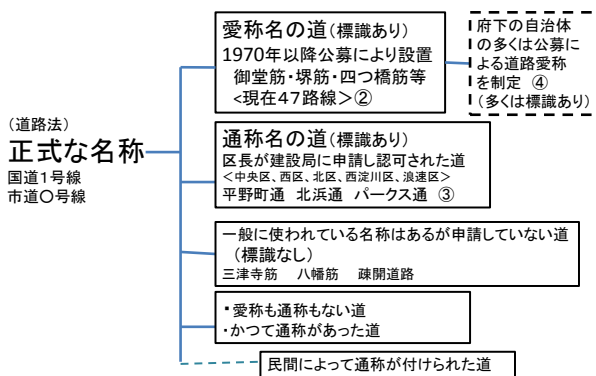
- ①現状通称名で呼ばれている道
 - 古くから通称名で呼ばれてきたもの。
 - 新たに作られた通称名。
- ②かつて通称名で呼ばれていたが消えてしまった道。

<留意点>

名称は「道」「筋」「通り」「ロード」「ストリート」「街道」のいずれのものも対象とする。
ただし、旧街道は含まない。

- ①大阪府内の通称名(愛称名も含む)の道の変遷を調査。
- ②通称名の道を分類・整理。
- ③復活できる通称名の発掘。

3. 通称・愛称名の道の分類 <資料参照>



3. 通称・愛称名の道の分類 <資料参照>

1. 大阪市内の通称名の道の変遷
 - 1) 1970年(昭和45年)以前
大阪市内中心部においては江戸時代から通称名が使われていた。船場において「通り名」はほぼ町名にあたるものであったので、地図には別に南北の「筋名」が記載されていた。
 - 2) 1970年(昭和45年)以降、イベント開催にあわせて47路線に公募により愛称が付けられる。
 ・1970年(昭和45年)日本万国博覧会開催時 18路線
 ・1983年(昭和58年)大阪築城400年まつり 15路線
 ・1995年(平成7年) なみはや国体に向けて設定 14路線
 大阪市内の愛称名の道(47路線)については、旧来から通称名として使われていた道も多く、地図にも記載されていて広く定着している。加えて、地下鉄の路線とも連動していてわかりやすい。
 - 3) 愛称道路以外に「通称名」の道路として各区長からの要望により大阪市建設局により認定された道路には、道路名の標識が設置される。通称名の道路は現在26路線で中央区、西区、北区、西淀川区、大正区、浪速区の6区にある。
 - 4) 現実には通称名で呼ばれているが、標識にも地図にも記載のない道として三津寺筋、八幡筋等
2. 大阪府下の各都市の愛称道路の設定
吹田市は2000年に市内の道路に一括して公募により愛称を設定した。他市においては必要に応じて適宜公募などにより愛称を設定し、標識を設置している。
3. かつては通称名の道として存在した道
時代や周囲の環境の変化により消滅した通称名の道。たとえば「ビール道」「造船所通」など。
4. 道周辺の活性化をめざして関係者により命名された道。具体的な事例で検証。

4. 既に行政によって付けられている通称名の道の問題点

- 大阪市の愛称道路以外通称名の道路の場所がわかるサイトがない。(現地に行かなければわからない。)
- 名称にインパクトがない。
けやき通り、さくら通りなどどの地域でもある名称
- 大阪市の通称名の道の多くは中央区、西区、北区、西淀川区、浪速区、大正区にあり、他の18区にはない。
- 大阪市内の多くの人が知っている道でも通称名の表示のない道がある。→三津寺筋 八幡筋
- 地図に通称名の記載がない。

5. 具体的な事例の検証

1) 新たに道の関係者によって命名された道

- ①ダイヤモンドトレール(屯鶴峯～金剛山系～槇尾山)
- ②ロマンチック街道(豊中市)
- ③オタロード(浪速区)

2) 歴史的由来の名称を近年に通称名として付けた道

- ①レッチワースロード(吹田市・千里山)

3) かつて通称名で呼ばれていたが消滅した道

- ①ビール道(大正～昭和時代・吹田市)
- ②造船所通(大正～昭和時代・住之江区)

5-(1)新たに道の関係者によって命名された道

①ダイヤモンドトレール(略称・ダイトレ)

屯鶴峯-二上山-大和葛城山-金剛山-岩湧山-槇尾山
1970年大阪府によって制定、1972年に命名された。

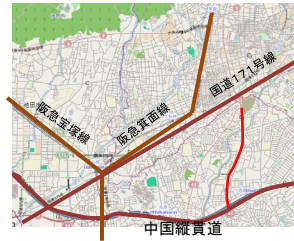
金剛山-金剛石=ダイヤモンドが由来



- ・毎年4月にイベント開催。
- ・年間80万人が訪れる。
- ・一言で言い表せる名称がなければ、「二上山から金剛山への縦走路」

5-(1)-② 豊中ロマンチック街道

昭和40年代「新修 豊中市史」
沿道にはほとんど人家なし。(旧地名・野畑)
昭和50年代前半
病院、スーパー、低層住宅
昭和50年代後半
飲食店が建ち始める
(朝日新聞平成14年8月14日)
昭和63年「ロマンチック街道」と名付けられる。→ここから急激に発展



1980年5月
命名前の道

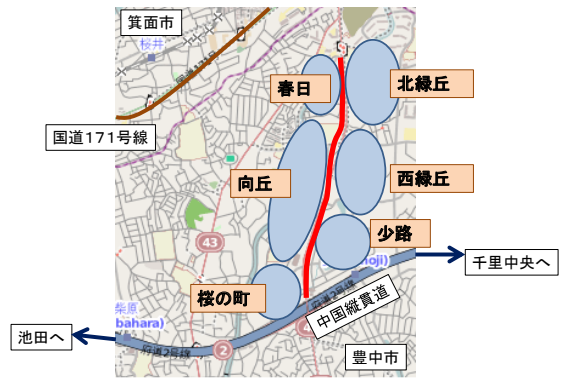
「空から見た大阪」1981年
日本交通公社出版事業局

5-(1)-② 豊中ロマンチック街道



商業施設は「ロマンチック街道」、マンションは「緑丘」を使うことが多い。

沿道には行政上6つの町名があるが、「ロマンチック街道」という通り名で一つにまとまっている。



5-(1)③オタロード(浪速区)



2014年3月ストリートフェスタ

「オタロード」という通称名が既に地図に記載されている。

正式な名称は日本橋筋西通商店街

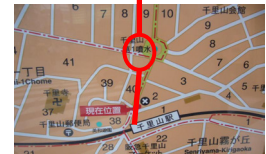
5-(2)歴史的由来の名称を近年に通称名として付けた道
レッチワースロード(吹田市・千里山)



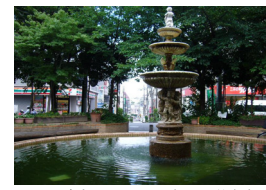
千里山住宅地は大正時代イギリスのレッチワースという街をモデルにして作られた



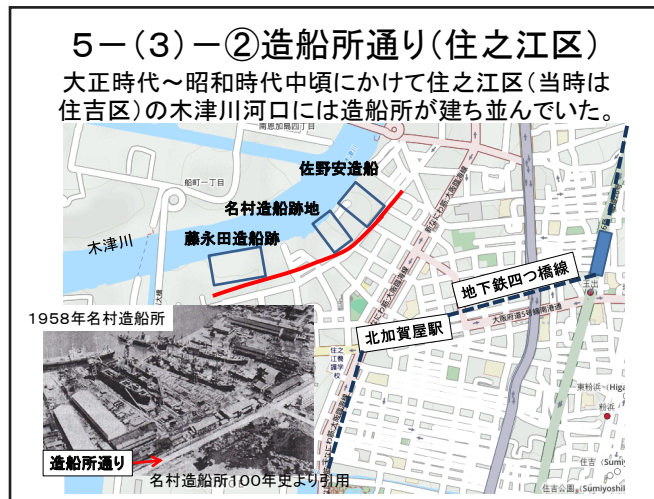
阪急千里山駅前からの坂道。飲食店が多い。



阪急千里山駅前の案内板に加筆。右が北。



丘の上の噴水はこの町ランドマークの存在。英国のレッチワースにもある。



通称名「造船所通り」復活命名の可能性

- ① 象徴的な施設が近代化産業遺産で残されている。
- ② この拠点施設に絡んだプロジェクトやイベントが継続的に行なわれている。
- ③ 周辺に名残りとなるものがいくつか残っている。
バス停の名称／電柱の標識／跡地の石碑
- ④ 沿道に商業施設が増えてきている。
→道による場所の特定。
- ⑤ 「造船所」の名を付けられるところはあまりない。

6. 具体的な事例のまとめ

- (1) 新たに命名された通称名の道
 - ① ダイヤモンドトレール ② ロマンチック街道 ③ オタロード
→時代の流れが感じられた時に早い時期に名称を通称名として付けてしまうのは有効。→今の時代は検索キーワードになる。
- (2) 歴史的由来の名称を近年に通称名として付けた道
 - ① レッチワースロード(吹田市・千里山)
歴史的な背景が表現された名前が地域の人の意識の高さを感じられるが、少し言いにくい。定着するかどうか？
- (3) かつて通称名で呼ばれていた道
 - ① ピール道 ② 造船所通 → 復活できる可能性あり。
景観や地名から引用した道の名前は地域の人にとっては分かりやすい名称かもしれないが、他の地域との差別化はできない。かつて使われていた道の通称名はその地域だけのものが多く使える場合がある。両者とも象徴的な建物が残っている。

7. まとめ

- 1) 道には名前があることが重要。
名前がないと多くの人で場所の特定ができず、共通のイメージも生れない。名称があることによって生活面での利便性が高まり、観光面など地域の活性化につながる。
① 道(通り)の名称で所在地を表示した方が観光客に分かりやすい。
② 道に通称名があると、インターネットで検索しやすい。
- 2) 道の名称について、命名時には次の点に留意する必要がある。
 - ① 景観や象徴的な建物(商業施設、公共施設)などが表現されている。
 - ② 歴史的な由来が含まれていること。(人物、建物跡、歴史的なエピソード)
 - ③ 言いやすいこと。(語呂がよいこと。)
 - ④ 他の地域と差別化できること。
- 3) 道の名称は現地に表示され、地図に記載されなければ定着しない。